



特集

地域という“個性”と在宅医療

特集にあたって

オレンジホームケアクリニック代表

紅谷浩之

Beniya Hiroyuki

“個性”ある地域を支え得る 地域包括ケアシステムの姿を探る

在宅医療は、地域包括ケアシステムを支える医療システムのひとつとして期待されています。そして、その地域包括ケアシステムは、地域によって千差万別で、地域特性に合わせてシステムづくりをすすめる必要があります。

高齢化がさらにますます進行する地域、もはや高齢化もピークに達して今後は人口減少に向かう地域、さらには地域の縮小を受け入れながらシステムを考える必要がある地域までさまざまです。日本創生会議人口減少問題検討分科会の発表した「消滅可能性都市」も記憶に新しいのではないのでしょうか。

それぞれの地域で行われるべき在宅医療の形態、地域包括ケアシステムの姿はどのようなものなのでしょうか。隣の地域でうまく行っている取り組みをそのまま真似ても、自分の地域ではうまくはいきません。地域という“個性”を考えずに、医療を含めた資源をむやみに投入しては、「地域の終末期」を「対症療法で延命している」ことにもなりかねません。人口構造、産業、地域性、変化し続けるそれらをまさに包括的に考慮しながら、地域を支える仕組みはどのように見つけていけばよいのでしょうか。

本特集が、目の前の患者に在宅医療を提供しながらも、さらにその地域全体を元気にしたいと願い活動している皆さんの、これからの取り組みの参考になれば幸いです。